

令和6年度第3回住吉区区政会議での意見等一覧

○協議事項

・令和7年度住吉区運営方針（案）について

	項目	意見等の内容	当日の回答	今後の対応方針・事後回答
①	全体について	<p>(辻野委員) 将来ビジョンの策定から1年ほど経過し、全体的な傾向や実感されていること、区役所の印象を聞きたい。</p>	<p>(小林地域課長) 運営方針の地域活動に関する項目の成果指標については、昨年度と比較して上昇している項目が多く、順調に進んでいると考えている。来年度も目標を見据えて取組を進めていきたい。</p>	<p>(中野政策推進課長) 今後、将来ビジョンの単年度のアクションプランである令和6年度運営方針の自己評価を行い、その結果について、来年度の第1回区政会議で委員の皆さんにご議論いただく予定としている。</p>
		<p>(栗野委員) 令和7年度運営方針（案）について、「多様化」という言葉が良く使われており、これ一言で片づけられてしまうとは思いますが、もう少しその「多様化」の意味合いも考えてもいいのかなと思う。</p>		<p>(中野政策推進課長) 将来ビジョンは幅広い世代・分野の住民が多様な課題を“自分事”として、共にまちづくりをめざしていくという観点に立ち策定しており、ビジョンの単年度のアクションプランである運営方針においても、「多様化」という言葉を使用している。</p>
②	指標について	<p>(栗野委員) 住吉区区民意識調査の対象者は区民全体なのか。</p>	<p>(中野政策推進課長) 住民基本台帳から無作為に抽出した2,000人に調査票を年2回送付している。今年度の回収率は約40%であった。</p>	
		<p>(辻野委員) アンケートも時間、労力がかかると思うが、数値が上がっても実感としてよくなっていないのであればよくないし、数値が下がっても実感としてよくなっているのであれば、それはいいと思う。数値に振り回され過ぎないというのも大事で、場合によっては、数値目標自体を辞めてしまって、辞めた代わりに何かが生まれてくるということがあるかもしれないので、そのような議論があってもいいのかなと思う。</p>		<p>(中野政策推進課長) 運営方針の評価については、客観的・定量的に測定できる数値での設定を行っているほか、具体的取組を評価する指標には、現場で活動されている方の声や所感を数値化しているものもあり、引き続き、最適な指標について検討していく。</p>
③	地域活動にかかる経費について	<p>(仲本委員) 地域活動協議会の発足以来、地活協補助金の予算額が変わっていない。最近は何物の上昇もあり、従来どおりの事業や新規事業を実施するのは限界がある。そのあたりを加味した予算編成を行っていただきたい。</p>	<p>(小林地域課長) 補助金については、住吉区で約4,000万円を各12地域（1地域あたり約200～300万円）に交付している。補助金を減額している区もある中、住吉区は10年間、補助金の減額はしておらず、補助率も従来の75%補助から100%補助に変更している。しかしながら、物価の上昇もあることから、増額については今後も検討していきたいと考えている。 一方、各地域においては、広報紙の配布事業、放置自転車対策事業、ペットボトル回収事業等による自己資金の確保に努めていただいております。そういった好事例も区役所から周知し、地域が様々なイベント、新規事業に取り組んでいただければ進めていきたい。</p>	
		<p>(鍛冶本委員) 地域で講習会等を開催する際に、個人で講師に依頼すると、それだけで一つの事業分の費用が掛かってしまう。区役所へのお願いとして、講師を依頼できる人材をストックしていただき、ご紹介いただける体制があれば助かる。そうすることで、従来の予算も軽減でき、様々なイベントの開催に広げることができる。</p>	<p>(小林地域課長) 大阪市では、地域活動のさらなる活性化への支援を目的に、団体の皆さんからの要請に応じ、専門知識やノウハウを持った「地域公共人材」を派遣している。 また、住吉区では、大阪公立大学の先生方とつながりがある他、防災士の取組も行っているため、そのような方々を紹介させていただくことも可能。ご要望がある際は、地域課へご相談いただきたい。</p>	

	項目	意見等の内容	当日の回答	今後の対応方針・事後回答
④	地域活動の担い手について	<p>(栗野委員) P T A に携わっている中で、担い手不足が課題と感じている。次の会長が見つからない等の問題から、P T A 自体の存続が難しいという学校園が出てきているとも伺っている。地域が今後も活動していくために、子育て世代の小学生、中学生の保護者の方々に、地域に参画してもらうためにはどうしていくべきか、そういうことを課題として持たないと非常に厳しい状態なのかなと思う。</p> <p>また、一度 P T A をしてしまうと、他の活動にもそのまま呼ばれるという噂が流れていて、そちらまで連れていかれるのであれば、P T A 自体したくないというお話も聞く。しかし、本当に災害や何かあったとき、つながりというのは非常に大事なので、本当にこれだけでいいからということ、少しずつできるように、皆さんのご意見やお話を伺い、協力していけるような体制ができたならうれしいと思う。</p> <p>(鍛冶本委員) 地域に関わることが嫌な保護者の方々に、その理由について聞いてみると、こういう会議が嫌というところから始まって、役員をするのが嫌とか、そういう意見が挙がる。このような状況の中では、一人ひとりに声をかけて誘うのが一番早いなと思っていて、「もうあんた、町会入ってくれるか」という直接的な話題から入るのではなくて、保護者の方々と個別にコミュニケーションが取れるような機会をつくり、人間関係を構築した上で、「これが地域の活動なんや」と、最終的には納得していただいた上で活動に参加してもらう。P T A もそういう形で継続していけるように心がけている。</p>	<p>(柏木教育文化課長) P T A をはじめ、青少年指導員、青少年福祉委員など各種社会教育団体共通で、担い手不足という課題がある。大阪市の10校程は既に P T A が無く、P T A に代わる保護者会やサポーターによって、行事がある際にお手伝いいただくというような学校もあるということを知っている。以前は、P T A の役員さんから青少年指導員、青少年福祉委員等の様々な役職を順次担っていただいていたが、共働きの方も増えており、1人の方が重複して担って頂いている状況からも、負担をどのように軽減できるのか、区としてもできる部分は支援していきたいと考えている。</p> <p>また、地域の中にも、潜在的に活動できる方がいる可能性もあるため、そういった方々へのお声がけや広報の仕方も考えていく必要がある。</p>	
⑤	地域のつながりについて	<p>(繁田委員) 町会で運動会をするとか、中学生の皆さんの協力を得られるような場をつくりたい。昼間はほとんどのご家庭が共働きという中で、何かあったときに助けてもらえるのは、地元近くの中学生のお子さんであり、地域の大人と仲間になるような交流の場をつくれたらと思っている。</p> <p>(栗野委員) 中学生を巻き込んで地域と学校で防災訓練を実施するにしても、昨今の働き方改革が壁になっていて、学校に協力いただきにくい状況がある。「時間外になるからそれはできない」、「場所は貸してもいいけど職員が出るのは困る」と言われてしまうため、もう少し柔軟な対応ができればと思っている。</p>	<p>(橘区長) 学校によって温度差があり、各校長先生毎にも様々な考え方がある。やはり中学生ともなれば、クラブ活動や塾があり、イベントを企画しても中々生徒が集まらない問題がある。また、働き改革として、校長先生も教職員の方々に言いづらいという状況もあると知っている。</p> <p>一方で、積極的に「地域にお願いしたい、一緒に中学生と防災訓練したい」と言う校長先生もいる。その際は、地域課を中心とした区役所が、学校、地域とのパイプ役として調整させてもらう。将来的に、可能であれば、全中学校で地域と一緒に訓練ができればと思っているため、そのような働きかけを今後もやっていきたいと考えている。</p>	
⑥	自転車マナーについて	<p>(栗野委員) 子どもや高齢者の方々に交通マナー等の講習をすることも大事だとは思うが、個人的には、お母さん世代の自転車の運転も危ないと感じている。また、高校生をはじめとした若い世代も、通学・通勤時にスピードを出している場面も見られるため、そういった世代への啓発も必要ではないか。</p>	<p>(小林地域課長) 電動自転車をはじめとした様々な形態の自転車が増えており、そのような点にも注意する必要があると考えている。また、住吉区は特に子どもと高齢者の事故が多く、集中的に啓発をしている一方で、警察と連携し、幼稚園や高校の生徒に対する啓発活動、講習会も実施している。</p> <p>また、「子ども見守り隊交流会」においても、栗野委員からご質問いただいた内容についてご説明させていただき、住吉警察署交通課から自転車マナーに関するお話もさせていただき、その際の資料等を学校や P T A に提供するなど、様々な形で工夫して周知を行っていく。</p> <p>(橘区長) 住吉警察署も非常に関心が高い内容であるため、今日頂いたご意見は、直接私から住吉警察署長に情報共有させていただく。また何らかの形で警察署からもご提案いただければと思っている。</p>	<p>(小林地域課長) 令和7年2月12日に区役所にて地域課と住吉警察署から交通関連事業等の今年度の取組や各地域での好事例を栗野委員に紹介し、その内容をPTA役員会で共有いただき、改めて連携すべき取組について連絡いただくよう依頼した。</p>

・令和7年度住吉区区政会議の開催予定（案）について

	項目	意見等の内容	当日の回答	今後の対応方針・事後回答
⑦	開催時間について	<p>（豊嶋委員） 令和7年度区政会議開催日程への意見として、午後6時半開始が出席しづらいという意見が2件ある。その意見は考慮された上で、この予定となっているのかお聞きしたい。 午後7時開始がいいという意見が2つ書いてあるので、1回は午後6時半開始にして、1回は午後7時開始と、開始時間を変えてみた上で意見を聞くという方法もあるのでは。</p>	<p>（中野政策推進課長） 昼の時間の開催、遅い時間の開催、どちらにもご意見いただいている。そんな中で来年度も、現時点では同じ開始時間で計画させていただいた。 今回頂いたご意見も踏まえ、検討させていただく。</p>	<p>（中野政策推進課長） 2月3日付で委員の方々に開始時間に関するアンケートを実施し、ご意見を聴取した。結果、最も多くの方が従来の開催時間（午後6時半～）を希望されているため、来年度は同じ時間で実施させていただく。</p>
⑧	開催日程について	<p>（東委員） 例年、年度最後の区政会議があり、その後の会議予定として、地域福祉会議、防災専門会議が予定されている。そのため、各専門会議の3回目が終わった後、次年度の区政会議の1回目に行われる各専門会議の報告事項までタイムラグがあると感じている。これだけ各会議の間隔が近いのであれば、各専門会議の3回目、少なくとも近い2つを終えた上で、年度最後の区政会議をしていただく調整はできないのか。やはり委員の皆さんも、できるだけ各専門会議でフレッシュに議論されたものをお聞きした上で、ご意見を出されたいのかなと思う。 各専門会議を例年より前倒しで開催した上で、年度最後の区政会議で回収するというのも難しいのか。</p>	<p>（中野政策推進課長） 区政会議においては、委員の皆さんに議論していただく必須の項目があり、その関係上、現行の日程で組まざるを得ない面がある。</p> <p>（小林地域課長） 防災専門会議はおおむね6月と10月と2月に実施している。6月は予算要求のために、必要な備蓄物資について専門家の意見を聞かせていただきたいということで実施している。10月は、11月に総合防災訓練を実施しているため、その内容について最終吟味をするということで実施している。2月はその11月の総合防災訓練の振り返りや次年度の取組について検討させていただくために実施している。若干の前後は地域課としては可能かと考えている。直近で防災専門会議委員の先生方に日程や開始時間に関するアンケートを取らせていただく予定にしており、今回頂いたご意見に関する日程調整も踏まえて、政策推進課と相談させていただく。</p> <p>（柏木教育文化課長） 総合教育会議については、第1回を8月、第2回を12月に開催していたが、区政会議資料を1か月前に送付する都合上、今回は第1回実施分しかご報告できなかった。来年度については、区政会議の日程を踏まえ、これに準じた形で日程を検討する方向で考えている。</p> <p>（小西保健福祉課長） 地域福祉専門会議は、例年6月、10月と2月に開催しており、区政会議との関連も踏まえて、来年度以降の開催日程については検討させていただきたい。</p>	